



ビデオ エンドポイントの監視

このセクションでは、次の点について説明します。

- [ビデオエンドポイントの監視 \(1 ページ\)](#)

ビデオエンドポイントの監視

エンドポイントの診断ダッシュボードには、すべてのビデオエンドポイントの詳細が表示されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

の任意のエンドポイントをウォッチリストに追加して、さらに詳細なトラブルシューティングを行うことができます。

[ウォッチリストに追加 (Add to Watch List)]および[ウォッチリストから削除 (Remove from Watch List)]は、エンドポイントの 360° ビューにも含まれています。[ウォッチリストに追加 (Add to Watch List)]を使用すると、会議をウォッチリストに追加することができます。これは、[Not In Use]および[In Use]の両方のエンドポイントで有効です。ステータスが[Not In Use]のエンドポイントの場合、エンドポイントが会議に参加するとトラブルシューティングが開始されます。ステータスが[In Use]であるエンドポイントに対しては、ただちにトラブルシューティングが開始されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合



(注) より詳しいトラブルシューティングを行うために、すべてのエンドポイントをウォッチリストに追加する必要はありません。

ページの左側にある [Device Group] ペインを使用して、デバイスタイプに基づいてエンドポイントをフィルタリングすることができます。詳細については、「[デバイスグループの管理](#)」を参照してください。

エンドポイントの診断ダッシュボード

エンドポイントの診断ダッシュボードには、すべてのビデオエンドポイントの詳細が表示されます。

ページの左側にある [Device Group] ペインを使用して、デバイスタイプに基づいてエンドポイントをフィルタリングすることができます。詳細については、「[デバイスグループの管理](#)」を参照してください。

選択 [診断 (Diagnose)] > [エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] をクリックして、エンドポイント診断ダッシュボードを表示します。次の表には、エンドポイントの診断ダッシュボードに表示される情報が示されています。

表 1: エンドポイントの診断ダッシュボード

| 情報 | 説明 |
|--------------------|--|
| エンドポイント サマリー メトリック | 次の詳細を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合 管理対象エンドポイント • 未登録のエンドポイント • 現在使用中のエンドポイント • アラームのあるエンドポイント • 監視リストに追加されたエンドポイント |
| エンドポイントのリスト | すべての登録済み、未登録、不明なエンドポイントに関する詳細情報を提供します。エンドポイントの登録、使用状況、および可視性のステータスを確認するには、このペインを使用できます。 |
| エンドポイントの詳細 | 選択したエンドポイントタイプに基づいて次の詳細を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • システム情報 • 周辺機器 • 次の 3 日間にスケジュールされた会議 • サービスおよびネットワーク インフラストラクチャ |



(注) **Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合**

TC/CE ソフトウェアで実行される、ビデオまたは TelePresence ポイントに接続された周辺機器（カメラやマイクなど）の詳細を表示できます。これは、SX、MX、EX シリーズのエンドポイントに適用されます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.6 以降の場合

TC/CE ソフトウェアで実行される、ビデオまたは TelePresence ポイントに接続された周辺機器（カメラやマイクなど）の詳細を表示できます。これは、CE イメージを使用する SX、MX、DX、および EX 一連のエンドポイントに適用可能です。

CE イメージを使用する ciscoDX70 および ciscoDX80 はエンドポイント診断をサポートされていません。

Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合、エンドポイントが属するお客様を確認できます。Cisco Prime Collaboration Assurance を Enterprise で導入した場合、エンドポイントが属する Assurance ドメインを確認できます。[モデル (Model)]、[デバイス プール (Device Pool)]、[クラスタ名 (Cluster Name)]、[IP アドレスの切り替え (Switch IP Address)] 列をフィルタリングすることができます。[フィルタ (Filter)] アイコンをクリックし、これらの列でドロップダウンリストの矢印をクリックします。ポップアップ ウィンドウに一覧が表示されます。

エンドポイントの診断ダッシュボードは CSV または PDF ファイルとしてエクスポートできます。このファイルには、ユーザ インターフェイスに表示される正確なデータが含まれていません。

クイック ビュー アイコンをクリックすると、エンドポイント 360° ビューが表示されます。

エンドポイントの可視性を変更するには、[可視性の変更 (Edit Visibility)] をクリックします。

[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] フィルタに保存されているフィルタは、正常に保存されません。保存されたフィルタは現在のセッションのみに存在し、更新/ログアウト後にクリアされます。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 SP2 以降の場合



(注) 新規インストール (Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 SP2) では、エンドポイントの可視性設定はデフォルトで [OFF] 状態になっています。以前のバージョン (Cisco Prime Collaboration Assurance 11.6、Cisco Prime Collaboration Assurance 12.1 FCS/ES1/ES2/ES3/ES4/SP1/ など) から Cisco Prime Collaboration Assurance SP2 にアップグレードしているときに、インストールのルーチンでは、すでに管理されているエンドポイントのデフォルトの可視設定を保持します。

Cisco Prime Collaboration リリース 12.1 SP2 以降の場合

TC/CE エンドポイントの可視性を変更すると、選択したエンドポイントでフィードバック サブスクリプションにエラーがある場合、「1つ以上の TC_CE エンドポイントにフィードバックサブスクリプションエラーがあります。[管理ステータスの原因列を確認してください (Check Management Status Reason)] という警告メッセージが表示されます。

エンドポイントの現在の可視性が表示されます。何らかの変更を加えた場合は、[保存 (Save)] をクリックします。詳細については、「[エンドポイントのリアルタイムの可視性](#)」を参照してください。エンドポイント名の直前にあるアイコンにポインタを合わせると、エンドポイントの可視性ステータスがエンドポイント 360° ビューで表示されます。

エンドポイント 360° ビューでは、[ウォッチリストに追加 (Add to Watch List)] および [ウォッチリストから削除 (Remove from Watch List)] も表示されます。[ウォッチリストに追加 (Add to Watch List)] を使用すると、会議をウォッチリストに追加することができます。これは、[Not In Use] および [In Use] の両方のエンドポイントで有効です。[Not In Use] のエンドポイントの場合、エンドポイントがセッション会議に参加するとトラブルシューティングが開始します。ステータスが [In Use] であるエンドポイントに対しては、ただちにトラブルシューティングが開始されます。

エンドポイントでは、次のテストを実行できます。

- On-Demand Phone Test : エンドポイントを選択し、「[テストの実行および音声電話機の機能テスト \(Run Tests > Audio Phone Feature Test\)](#)」をクリックします。On-Demand Phone Test の詳細については、「[On Demand Phone Test](#)」を参照してください。
- Synthetic - End-to-End Call Test : エンドポイントを選択し、「[テストの実行および音声テスト コール \(Run Tests > Audio Test Call\)](#)」をクリックします。End-to-End Call Test テストの詳細については、「[Synthetic Tests](#)」を参照してください。
- Video Test Call : 2つのビデオ エンドポイントを選択し、「[テストの実行および音声テスト コール \(Run Tests > Video Test Call\)](#)」をクリックします。Video Test Call の詳細については、[ビデオテスト コールの管理](#)を参照してください。



(注) Cisco Prime Collaboration Assurance を MSP モードで導入した場合、[Video Test Call] 機能は使用できません。

不明なエンドポイントの一覧を表示するには、ユーザインターフェイスの左側にある [デバイス グループ セレクタ (Device Group Selector)] ペインで [定義済みおよび不明なエンドポイント (Predefined > Unknown Endpoints)] を選択します。



(注) Polycom エンドポイントは Cisco VCS に登録されている場合だけをモニタされます。Polycom コールコントローラに登録されたときにはモニタされません。自動コール検出は HTTP フィードバックを使用してサポートされます (Cisco VCS を使用します)。会議の統計や会議の情報など、リアルタイムのモニタリングに関する情報はサポートされていません。

デフォルトでは、[エンドポイントの診断 (Endpoints Diagnostics)] ページの自動更新機能は無効になっています。2分ごとの自動更新を有効または無効にするには、ユーザインターフェイスの右上隅にある [自動更新 (Auto Refresh)] チェックボックスをオンにします。

自動更新機能が無効にし、後でアプリケーションにログインすると、機能は無効のままになっています。有効にするには、[自動更新 (Auto Refresh)] チェックボックスを再度オンにします。



(注) **Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合**

音声またはビデオのエンドポイントが 1 つの Unified Communications Manager クラスタから別の Unified Communications Manager クラスタに移動すると、Cisco Prime Collaboration Assurance は、エンドポイントが現在登録されているクラスタのデバイス情報のみを表示します。いくつかのフィールド (例: デバイスプール) のデバイス情報は、夜間に実行されるクラスタ検出の後に表示されます。そのため Cisco Prime Collaboration Assurance は、以前の Unified Communications Manager クラスタと現在のクラスタの間で数が一致しない未登録のエンドポイントを表示します。以前のエントリが Unified Communications Manager にパーズされると、正しい数の未登録のエンドポイントが表示されます。

ユーザ詳細の 360° ビューを表示

このビューには、Cisco Unified Communications Manager または Cisco TelePresence Management Suite (TMS) エンドポイントに関連付けられているエンドユーザの情報 (ユーザ名、電子メール ID、オフィス電話番号、携帯電話番号など) が表示されます。エンドユーザの写真とロケーションの詳細は、Cisco Prime Collaboration Assurance が LDAP と統合されていて、ユーザ名詳細が LDAP 詳細と一致している場合にのみ表示されます。



(注) TMSに関連付けられているエンドユーザ情報は、「TMSプロビジョニング拡張機能」コンポーネントが TMS にインストールされている場合にのみ取得できます。

このビューにアクセスするには、以下を行います。

- ステップ 1** グローバル検索ドロップダウンから、[ユーザ (User)] を選択します。[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページの [ユーザ名 (Username)] 列から ユーザ 360 を起動することもできます。
- ステップ 2** * を入力すると、すべてのユーザが一覧表示されます。文字列検索によって、より具体的な結果を得ることができます。たとえば、**test** と入力すると、名、姓、またはユーザ名に「test」という文字列が含まれているすべてのユーザが一覧表示されます。
- ステップ 3** ユーザ名に対応する [ユーザ 360 ビュー (User 360 View)] 起動アンカーをクリックします。

このビューの以下のタブにアクセスします。

- [エンドポイント (Endpoints)] : エンドユーザに関連付けられている管理対象エンドポイントが表示されます。このエンドポイントには、次が含まれます。
 - [前回の通話品質 (Last Call Quality)] : good、accepted、poor に分類されます。このフィールドには、最後に終了したコールの通話品質が示されています。CUCMに登録されているエンドポイントの [CMRレポート (CMR Report)]、または TMS に登録されているエンドポイントの [アラーム (Alarms)] ページを起動できます。
 - コール (24時間) : 過去24時間に発生した、エンドポイントが関与したコールの数。このフィールドは、Unified CMに登録されたエンドポイントの CDR レポート、および TMS に登録されたエンドポイントの全会議サマリー レポートから、を起動できます。
 - [登録ステータス (Registration Status)] : エンドユーザの登録ステータスが表示されます。コールが進行中の登録済みエンドユーザの場合、コール進行中インジケータである緑色のアイコンが表示されます。登録されていないエンドユーザの場合は赤色のアイコンが表示され、エンドユーザのステータスが不明な場合はグレーのアイコンが表示されます。
 - [サービス (Service)] : 最後に終了したコールのサービス (音声のみ、または音声とビデオ)。
 - [エンドポイントモデル (Endpoint Model)] : エンドポイントモデルが表示されます。クリックすると、[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページを起動します。
- [アクティブ会議 (Active Conferences)] : 現在通話中のエンドユーザのエンドポイントが表示されます。デバイスの詳細は、会議診断から追跡されます。[アクティブ会議 (Active Conferences)] には次のものが含まれています。
 - エンドポイントと接続先番号の画像。画像をクリックすると、[エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] ページが起動されます。
 - [品質統計 (Quality stats)] : 通話品質アラームの現在の最高重大度を示すアラームアイコン。
- **Cisco Prime Collaboration リリース 11.1 以前の場合**
 - [ツール (Tools)] : [トラブルシューティング ページへのリンク](#)。
- [アラーム (Alarms)] : 以下を表示します。
 - Severity
 - アラームを受信したソース
 - アラームの名前
 - タイムスタンプ



- (注) Unified CMに登録されているエンドポイントの場合は、新しいユーザの同期が自動的に行われます。TMSに登録されたエンドポイントを除いて、新しいユーザの詳細を同期するには、TMSを手動で再検出する必要があります。

ビデオテストコールの管理

Managedの状態にある2つのビデオエンドポイント間で、ビデオテストコールをポイントツーポイントで作成し、ネットワークをテストすることができます。Medianetの統計を使用し、イベントとアラーム、会議の統計、エンドポイントの統計。このコールでは、CTS、CおよびEXシリーズのコーデックのみがサポートされています。



- (注)
- この機能は、E20のコーデックシリーズではサポートされていません。
 - この機能を使用するには、エンドポイントのCLIクレデンシャルを追加する必要があります。
 - エンドポイントが登録済みであり、(Unified CMに登録されている) エンドポイントでJTAPIが有効になっていることを確認してください。
 - Cisco Prime Collaboration AssuranceをMSPモードで展開している場合は、ビデオテストコール機能は使用できません。
 - Mobile and Remote Access (MRA) ソリューションを使用してエンドポイントが登録されている場合、「ビデオテストコール」機能はサポートされません。

表 2: ビデオ テスト コールの管理

| タスク | 説明 |
|---|--|
| <p>• [診断 (Diagnose)] の [エンドポイントの診断 (Endpoint Diagnostics)] で、ビデオ テスト コールを開始する</p> <p>• ビデオ テスト コールを開始する</p> <p>[診断 (Diagnose)] の [会議の診断 (Conference Diagnostics)]</p> | <p>ビデオのエンドポイントを選択し、[ビデオテストコール (Video Test Call)] をクリックして、選択した2つのエンドポイント間にテストコールを作成します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • このボタンは、ビデオのエンドポイントを2つ選択した後にのみ有効になります。 • エンドポイントを2つよりも多く選択して、ビデオテストコールを作成することはできません。 <p>または</p> <p>[会議の診断 (Conference Diagnostic)] ページで会議を選択し、[ビデオテストコール (Video Test Call)] をクリックして、そのスケジュール済みの会議に対してテストコールを作成します。</p> <p>(注) このボタンは、スケジュール済みの会議を選択した後にのみアクティブになります。スケジュール済みの会議のリストを表示するには、スケジュール済みの会議で絞り込みます。日時が現時点よりも先の会議のみを選択してください。</p> <p>[テストコールの追加 (Add Test Call)] ウィンドウが表示され、エンドポイントの IP アドレスをクリックすると、そのアプリケーションが起動します。デフォルトでは、テストコールは即座に実行されますが、スケジュールを設定することもできます。</p> <p>CTS エンドポイントの場合は、SIP プロトコルのみを選択してください。Ex および C シリーズのエンドポイントの場合、H.323 と SIP のいずれかのプロトコルを選択できますが、これらのエンドポイントがこれらのプロトコルを使用して登録されている必要があります。[コールの追加 (Add Call)] ボタンをクリックすると、コールが正常に追加されたことを通知するメッセージが表示されます。</p> <p>スケジュール済みのコールの詳細を、[会議の診断 (Conference Diagnostics)] ページで確認できます。Medianet の統計を使用し、イベントとアラーム、会議の統計、エンドポイントの統計。この情報は、テストコールが完了した後でも確認できます。コールによってネットワークの問題が発生した場合は、すぐにコールを停止することができます。</p> |

| タスク | 説明 |
|--|--|
| 実行中のビデオテストコールの停止 | <p>ビデオテストコールによってネットワークに問題が起きた場合は、コールを停止することができます。コールを停止するには、[会議の診断 (Conferences Diagnostic)] ページでフィルタに [テストコール会議 (Test Call Conferences)] を設定して、テストするコールを選択します。会議の件名にマウスカーソルを合わせると、360° 会議ビューが表示され、[コール停止 (Stop Call)] アイコンをクリックすると、進行中のビデオテストコールが停止します。</p> <p>テストコールは約 5 分間継続し、その後自動的に停止します。</p> |
| <p>スケジュール済みのビデオテストコールを [ビデオテストコールの設定 (Video Test Call Configurations)] ページで編集する</p> <p>[模擬テスト (Synthetic Tests)] > [ビデオテスト (Video Test)]</p> <p>同じページからビデオテストコールを表示または削除することもできます。</p> | <p>[編集 (Edit)] をクリックしてビデオテストコールを編集し、[保存 (Save)] をクリックするとコールを再スケジュールまたは即座に実行できます。コールが正常に変更されたことを通知するメッセージが表示されます。</p> |

